

討議経過報告書

【1日目（11月11日）午後】

各自自己紹介の後、全体会の事例紹介の中に出てきた下記キーワードをもとに各大学での状況や意見交換から行なった。

- 初年次教育について
- SA、ピアサポート（学生対学生の活動）について
- ICTの活用について
- ポータルサイトの状況について
- Aグループメンバーの大学の規模（学生数※院生含む）について  
北海商科大学：600人、早稲田大学：50,000人、松本歯科大学：700人、  
仏教大学：6,800人、大阪商業大学：5,000人、広島文教女子大学：1,200人

【2日目（11月12日）午前】

翌日の発表に向けて、テーマを決めて（絞って）討議する必要があるが、各大学の規模などにも差があり、すぐに決めるのは難しいということで、まずは総論的なテーマで討議し、その中から各大学の共通的な事項をテーマとして取り扱うこととした。討議の進め方としては午前中に事例紹介を行った佛教大学の事例を中心に話を進めた。

- 仮テーマ：学生、教員、職員間の理想的なコミュニティツールとは ※議事メモより抜粋  
佛教大学（西）

- ・ 離脱者について、自発的離脱はよいが、そうでない学生も多く、彼らには満足いく学生生活を送って欲しいので、サポートすることはとても重要
- ・ 離脱者予備軍対策として、1回生の単位取得（成績、出席率）状況を現在分析中

松本歯科大学（音琴）

- ・ コンタクトが取り難い先生との連絡手段がある、というきっかけもある
- ・ オフィスアワーは公開している（シラバスに入れている）
- ・ コミュニケーションが活性化しているかは、科目による差がある
- ・ 教員が、必要と思う学生とのコンタクトにICTが利用できると、効率・利便性が図れ利用のきっかけになるのではないかと考えている
- ・ 就学指導について、入学手続き時に希望者の保護者には、携帯電話のメールアドレスを聞き、連絡できるようにしている
- ・ 面談は対面がいいとは限らず、職員によって対応が違ったり、言った言わないなどが起こる可能性があるため、必ず記録はとっている
- ・ 教員、職員がセットで学生対応をしているのもひとつの方法である

早稲田大学（上野）

- ・ 教職員と対面では聞きにくい学生がいるはずなので、ツールがあればいいのでは？

北海商科大学（一条）

- ・就学指導の対象は1-3年生。出席率が悪く、単位の取得状況が悪い学生の保護者に通達。
- ・3年生以上へは就職活動への配慮も必要
- ・職員も教員とともに、就学指導にかかわる。出張会場も決まっています 30分の面談も。

大阪商業大学（松本）

- ・コミュニケーションを取るきっかけ作りが必要
- ・就学指導は、教員よりも職員が積極的にかかわる（支援センターが機能しているため）
- ・保護者面談は職員がする。
- ・ツールの利用状況があがらないのは、学生ごとのコミュニケーションのとり方が様々なためではないか？

広島文教大学（山本）

- ・就学指導は、先生に委ねており、その後、チューターがかかわる

## 【2日目（11月12日）午後】

午前中の討議結果を受けて、「離脱者をどう防ぐか！」をAグループの発表テーマとして取り上げることとした。これは、佛教大学での事例紹介内でも、中途退学者をなくすことを目指す学生支援プログラム『縁（えにし）』コミュニティによる離脱者ゼロ計画』があげられていたり、規模は違えど各大学において、現在教育面はもとより経営面でも大きな問題となっている共通のテーマ（課題）のためである。

そこで各自が考える「どうすれば離脱者を防ぐことができるか」という離脱者防止策についてアイデアを挙げていき、各アイデアを「A. 授業についていけない」、「B. 自ら学びに入れない」、「C. 相談できない」、「D. 友達を作れない」という4つの項目に分類した。さらに分類した中で内容の似たものをグループ化し、最後に各グループに対して、どのようなICTのツール（携帯電話などのモバイルツールも含む）によって実現できるかを考えていった。

### A. 授業についていけない

#### ①授業外の場合（補講）を設ける

- ・コミュニティ
  - ・招待制（強制参加）※小テストによって判断
  - ・授業評価を初期時に行い、教員に通知し改善してもらう
- <アイデアソース>
- 補講（補習）
  - 教員から強制的に取り込む
  - ついていけない部分が明確になるカウンセリング
  - 大学院へ進学したい人、資格を取りたい人、単位だけとりたい人と目的別に授業をしてもらう

#### ②予習・復習用の教材配信

- ・用語集⇒WEBページ、e-learningへのリンク
  - ・授業内容⇒WEBページ、LMS※著作権には配慮が必要
  - ・学生に先生へのコンタクトを促がす
- <アイデアソース>
- 授業中に出てくる言葉の用語集を作成する

- 授業のバックグラウンドとしての資料集・用語集
- 教員の言っている事がよく分からない。質問フォーム・アーカイブ化・テキスト化
- 教材配信（予習・復習）
- 授業内容の講義後に掲示。授業に必要な用語集。授業の理解確保のチェックリスト
- ③授業・試験情報の配信 ※モバイルツール対応が理想
  - ・選択時、試験時など、
  - ・学生自分で登録
  - ・ポータル⇒ログイン⇒マイページに掲出
 <アイデアソース>
  - 授業のシラバス、講義の休講、試験情報（成績・解説）
- ④○○先生、○○科目のコミュニティ ※モバイルツール対応が理想
  - ・学生が自主的に参加
 <アイデアソース>
  - 克服した学生が主催するコミュニティ
  - 学生間の学びあい（コミュニティ作成・学生からの呼びかけ）
  - 共通（同様）のレベルの仲間が励ましあうしくみ

## B. 自ら学びに入れない

- ①啓蒙活動 ※モバイルツール対応が理想
  - ・卒業生に体験談を展開してもらおう（○○しておけばよかった、××が役立った）
  - ・リアルなイベント+日記(ブログ)を掲出
  - ・理想は双方向
 <アイデアソース>
  - コーチが付く、もしくはペアで参加する仕組み
  - 卒業生のサポート
  - 将来の夢がない。卒業生からの授業や卒業生を呼んで講演する。  
ネットにも掲載する。
- ②学習のやり方、効率的な方法を指導
  - ・添削してもらおう（LMSなどの添削システム）、院生・教職員
 <アイデアソース>
  - 勉強が楽しくない。学習方法・勉強のやり方・読書の方法
  - 入学前学習の実施
  - 自分の目指す資格が取れない。勉強方法を解説
- ③教える立場を経験してもらおう⇒小、中学生向けの教材を作る（LMS）
  - ・指導はゼミの研究生、院生
  - ・気付きを与える
 <アイデアソース>
  - 学生が小学校で出前授業を行なう（自らが教える）カリキュラム
  - 課外プログラムの紹介
- ④成績の可視化(点数、単位)分析、グラフ
  - ・インセンティブ・プログラムが必要、励ましは必須

- ・ポータル⇒ログイン⇒マイページ/LMS⇒ポートフォリオ
- <アイデアソース>
- 競争をあおる

## C. 相談できない

### ①担任制

- ・担任が学生の状況を全部閲覧できる（LMS）
- ・科目単位だけでなく、クラス単位のコミュニケーションができる
- <アイデアソース>
- 担任制度を活性化させる
- 担任制

### ②教員・職員・先輩の距離を縮める ※モバイルツール対応が理想

- ・ポータル、マイページから学生が選べる
- ・SNS、教職員・先輩が日記(ブログ)で情報を配信
- ・相談用メルアド/専用サイト
- ・無記名のしくみ
- <アイデアソース>
- 教員プロフィールとブログ
- 教員からの情報発信を増やす。教員からのコラム、教職員・学生のアバターをつくる。
- 職員のコラムを出す。キャンパスライフのQ&A
- 無記名（ニックネーム）で発言できる（コミュニティ）
- 教会の懺悔室のように、顔を出さずに相談できるような場を作る
- 相談サイト
- 悩み別の相談窓口（サイト）設置
- 気軽に相談することができるブースや掲示板の作成
- 相談用メールアドレス配布

### ③相談窓口の設置 ※モバイルツール対応が理想

- ・いつでも受付、必ず返答
- ・相談員を紹介するアイデアが重要
- <アイデアソース>
- 待つ
- 生活相談の質問ページ。健康相談（室）
- 24時間の受け皿（可能？アウトソース？）
- 必ず褒める、必ずコメントを返す係がいる
- 相談相手を選べるようにする。（教員・職員・在学生・大学院生・校友・男性・女性・保健室・カウンセラー）

### ④ヴァーチャル・ティー・アワー ※モバイルツール対応が理想

- ・オン・オフ会
- <アイデアソース>
- 同じ悩みを抱えた人の集まり（イベント）実施。ティーアワーみたいなもの。

#### D. 友達を作れない

##### ①趣味、興味、エリア、サークルなど、きっかけを作っておける

- ・職員のバックアップが重要

<アイデアソース>

- これに興味のある人集まれ～という掲示板のようなものを作り、共通の趣味のある人で集まる機会を作る
- 趣味を聞いて、くくって、コミュニティやオフ会
- 趣味や興味ある事柄を公開できるようにする
- 趣味別でイベント実施。(例) みんなで城めぐり
- 近所の人集まれ！(例) 大阪市淀川区の会
- 共通の知人(祖先、先輩)探しができる仕組み
- 「友達を作れない人コミュニティ」を作る

##### ②合宿・オリエンテーション

- ・顔が見える安心感
- ・簡単な試験をオリエン時に実施して教員に知らせておく

<アイデアソース>

- 合宿
- オリエンテーションの充実
- オリエンテーション強制参加。そこで話ができなければまたその人達で集合！強制！
- 全員、入学時にニックネームを付ける

上記のような離脱者防止策の実現案を考えるにあたっては、基本として学生主体の学生に優しいシステムであることが必要である。例えば、各学生のマイページには、各種相談相手となる人たちの顔(写真)付きの相談フォームがあったり、成績状況に応じて褒めたり、励ましのコメントが表示されたり、参照すべきWebサイトの案内が表示されるようにする。つまり、学生個々の多様な状況を勘案し、求める情報が網羅されている状態が理想である。

また、この実現案を実施するにあたっては、教職員への働きかけが非常に重要である。学生からのコミュニケーションに対して、実際に対応するのは機械ではなく、教職員なのである。

この内容にて、パワーポイントおよびマイページのイメージ画像を作成し、発表を行う。

以上

北海商科大学 一条昌弘  
早稲田大学 上野雅之(議長)  
松本歯科大学 音琴淳一(発表)  
コスモ・インタラクティブ 中瀬由利(書記)  
佛教大学 西誠(事例発表)  
大阪商業大学 松本智史(発表)  
広島文教女子大学 山本尚美  
廣済堂 山本芳史